

県下の交通事故 (6月30日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
57年	1,767件	47人	2,274人
56年	1,736件	32人	2,223人
比較	+1.8%	+46.9%	+2.3%



第56号

発行所  
甲府市丸の内一丁目6-1  
財団法人山梨県交通安全協会  
TEL 甲府 (0552) 37-7827



交通安全を願って自転車パレード

夏の交通事故防止県民運動

7月21日～8月31日

子供と老人を守ろう

この夏を思いやりで  
高めよう交通マナー

夏は、行楽シーズンと夏休みが重なり、交通事故が多発する時です。夏の交通事故を防止し、とくに子供と老人を目標として交通安全思想の高揚を図り、道路を利用するすべての人が、正しい交通ルールとマナーを実践することを習慣づけることにより、事故防止の徹底を図る目的で、七月二十一日から八月三十一日までの間「夏の交通事故防止県民運動」が実施されます。県交通安全対策本部が決めたおもな実施事項は次のとおりです。

シートベルトの着用を  
運転者も同乗者も

運動の重点

- 一 歩行者、自転車利用者、とくに子供と老人の交通事故防止
- 二 無謀運転の追放、とくにスピード・いねむり・飲酒運転による事故防止
- 三 シートベルトとバイク(原付車)のヘルメット着用の推進
- 四 暴走族追放のための地域総合対策の推進
- 五 夜間における交通事故防止

歩行者、自転車利用者  
とくに子供と老人の交  
通事故防止

- 1 交通安全指導、教育の推進  
家庭における夏休み中の交通安全の話し合いを

- 2 生活ゾーン対策の推進  
また、早朝ラジオ体操等の機会を利用して交通安全全一広報を推進する

無謀運転の追放、若年  
運転者に対する指導教育  
を徹底する。安全な遊び場  
を確保して遊び方を指導  
する。

- 1 無謀運転の追放、若年運転者に対する指導教育を徹底する。安全な遊び場を確保して遊び方を指導する。
- 2 ゆとりある運転の励行  
睡眠不足などによるいねむり運転、わき見運転を防止し、ゆとりあるレージャリ等の計画を設定し、規制速度以内の走行を励行する。

暴走族追放のための地  
域総合対策の推進

- 1 市町村の暴走族追放宣言の採択などによる暴走族追放気運の醸成
- 2 保護者責任の徹底  
家庭・学校・職場等での車両点検による不正改造車・整備不良車の追放
- 3 暴走族の集まる場所、広場の管理の徹底
- 4 暴走族追放三原則「し
- 5 暴走族追放三原則「し

スピードダウンの徹底  
前照灯の早目点灯  
自転車の反射器材の点  
検整備の推進

- 1 スピードダウンの徹底
- 2 前照灯の早目点灯
- 3 自転車の反射器材の点検整備の推進
- 4 飲酒・道路をふらついで歩かないことの徹底
- 5 夜間外出時の明るい衣服の着用と反射材ちようふの徹底

指導取締りの強化

- 1 飲酒運転、無免許運転等交通六悪の追放と取締り
- 2 街頭監視と保護誘導活等の強化徹底

とひ出しません(線)の整備、自転車の集中場所における駐車場の確保等を推進するとともに商店街、住宅街等の交通環境を整備する。

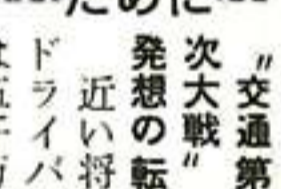
「安全」を行政

「安全」を行政

「安全」を行政

「安全」を行政

安全の  
ために



「交通安全」の問題を、家族全員の課題として受けとめ、まず家庭の中から被害者を出さないよう、さらに加害者を出さないよう徹底した教育が望まれます。

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

家族ぐるみの交通安全(1)

交通評論家 生内 玲子

私は、テーマを二つに分けてお話ししたいと思います。

第一番目は、こういって第二次大戦を迎えるに当たって、発想の転換、つまり

逃げの姿勢で現在社会は生きられない

逃げの姿勢で現在社会は生きられない

逃げの姿勢で現在社会は生きられない

逃げの姿勢で現在社会は生きられない

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から

交通安全は、まず家庭の中から



交通死亡事故を  
追放しよう

県内におけるこの夏の交通事故は、六月十日現在、発生一、五二六件、死者四二人、傷者一、九六〇人で前年同期に比較して発生件数、傷者はわずかながら減少しているものの死者が十四人、五〇%と大幅に増加し、増加率では全国ワースト五位であり、昨年の交通事故者が四十二人となったのが七月三十日です。昨年の交通事故者も早いペースとなつてい

昨年、年間死者九十一人で、昭和五十四年に二十年ぶりに記録した二ケタ台九十六人をさらに下回り、死者減少率は全国第三位の結果をあげました。しかし本年にはいり、交通事故が激増し、県警察をはじめ関係機関団体等で相次ぐ抑止対策をうただしています。が、なかなか止むめがかりません。

この夏の死亡事故の特徴は、型別別で車両の単独自爆事故が多く、原因別ではスピードの出し過ぎ、酒酔い運転が過半数を占め、年別別で若年層の事故が目立っています。また最近二輪車、自転車関係の事故が増加しています。その背景にあるのは、運転者のマナーとルールの欠如、歩行者、自転車利用者のルール無視などが指摘されています。

このところ全国的にも交通事故死者数が著しく増加し、極めて憂慮される情勢のため、国の交通対策本部において、このほど「交通事故防止に関する当面の緊急対策」を発表し、国民総ぐるみの事故防止を呼びかけています。この際運転者も自転車利用者も、また歩行者等すべての人が、基本にかえて「正しいマナーとルール」を実践することにより、交通事故を追放するたため努力しようではありませんか。

# 県安協定期総会開く

## 中村会長の再選決まる

### 常任副会長に吉田専務理事

県交通安全協会(中村太郎会長)は、五月二十一日、甲府市中央一丁目古名屋ホテルにおいて、昭和五十七年度定期総会を開催し、昭和五十六年度の事業報告並びに決算報告を審議し満場一致で承認しました。このあと、任期満了に伴う役員改選を行い、全会一致で中村会長の再選を決定し、高村捷治・河西定明・



昭和57年度県安協定期総会

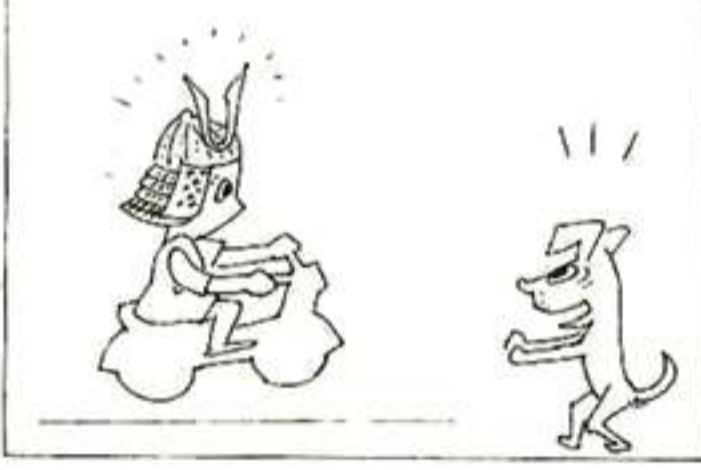
高野慶貴各副会長の留任を決定し、さらに、吉田専務理事の常任副会長、塩川常務理事の専務理事、金谷事務局長の常務理事兼事務局長の就任を決めて、自動車学校運営や免許制度改善への対応など懸案事項の多い安協運営の充実強化を図ることになりました。

また、監事は、小沢照次、中込太四郎、鈴木要吉の三氏の留任が承認されました。

なお、県警本部酒井交通部長から、最近の交通事故の発生状況、とくに前年に比して大幅に増加している死亡事故の分析結果の説明を受け、今後関係機関・団体と協力し、交通マナーの向上とルールの遵守を徹底するため一層努力することとしました。

### 輝く関東管区表彰

藤巻健吾さんら  
関東管区交通安全協会連合会(今里広記会長)の昭和五十七年度定期総会は、五月二十日東京の半蔵門会館で開かれ、席上、交通安全功労者等の表彰が行われ



◇四月六日～十五日  
春の全国交通安全運動  
きいろい羽根六万本、ポスター二千五百枚、ちらし六万三千枚、横断旗二千九百本、ポンピー九十九本、新入児童用腕章一万本、同母親用ちらし一万枚、安協ニュース十二万部、映画四本、スライド一本、大型横断旗三枚  
◇四月二十七日  
二輪車安全運転推進委員会  
◇五月八日  
二輪車指導員資格審査  
◇五月二十八日  
正副会長会議、理事会、評議員会合同会議  
◇六月八日  
自転車安全推進委員会  
◇六月八日  
交通安全教育推進委員会  
◇六月八日  
交通安全功労者表彰  
◇六月八日  
交通安全功労者表彰  
◇六月八日  
交通安全功労者表彰

◇六月十六日  
二輪車指導員認定証交付式  
◇六月二十一日  
第十二回こども自転車山梨県大会  
◇七月十日  
機関紙第五十二号発行  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告

◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告

◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告

◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告  
◇七月十九日  
山梨県交通安全協会  
安全協会昭和56年度事業報告

## 三類型(出合い頭)が過半数

### 県内交通事故の形態分析

本年四月末現在の交通事故発生状況は、発生一〇九八件、死者三一人、傷者一、四〇八人で、昨年同月比では、発生一四四件(一・三%)、死者一人(二・二%)、傷者一七人(一・二%)と増加し、とくに死者は、既に昨上半期の三二人と同数になり、死亡事故の激増ぶりを示しています。

交通事故の発生を形態別にみると、交差点等の「出合い頭」事故は、既に昨上半期の三二人と同数になり、「横断歩行者事故」「カーブにおける事故」の三つの形態(類型)が全事故発生件数の五〇・二%を占め

警察管区内別の3類型発生率

管内別	全事故	三類型	発生率
甲府	309	155	50.2
山梨	280	129	46.1
長野	25	15	60.0
岐阜	44	16	36.4
静岡	31	22	71.0
愛知	27	17	63.0
三重	13	8	61.5
滋賀	16	9	56.3
京都	65	29	44.6
大阪	35	20	57.1
兵庫	31	20	64.5
奈良	56	32	57.1
和歌山	95	49	51.6
徳島	38	20	52.6
高松	18	9	50.0
香川	15	1	6.7

二輪車に乗るときはヘルメットをかぶろう

致死率  
三類型事故五五一件のうち死亡事故二〇件で、致死率三・六%と全事故件数に対する死亡事故の割合二・八%よりも高い。

出合い頭事故  
事故率二四・二%

山梨県交通安全協会会員のための災害共済のお奨め

万人は一人のために 一人は万人のために

※ 保険会社の職員が内容説明に伺います

提供団体 山梨県交通安全協会

引受会社 **協栄生命**

甲府市丸の内三丁目20-3  
TEL 0552 (22) 4836代

優等二輪車指導員の表彰が、このほど東京の半蔵門会館において行われ、全国各地で活躍している指導員の中からとくに業績の優れた百名が表彰されました。本県関係の受賞者は、次の二名です。

小野秀樹(甲府) 吉田英之(甲府)

なお表彰式に先立って開かれた連絡会議で、メーカ1代表の一人として、本県の吉田特別指導員が二輪車安全運転教育に関する意見発表を行い絶賛を博しました。

二人を全国表彰  
優等二輪車指導員の表彰が、このほど東京の半蔵門会館において行われ、全国各地で活躍している指導員の中からとくに業績の優れた百名が表彰されました。本県関係の受賞者は、次の二名です。

小野秀樹(甲府) 吉田英之(甲府)

なお表彰式に先立って開かれた連絡会議で、メーカ1代表の一人として、本県の吉田特別指導員が二輪車安全運転教育に関する意見発表を行い絶賛を博しました。

# きめ細かい道路標識

## ジュネーブの交通事情

県警交通部長 酒井澄男



酒井澄男氏



横断用地下道の出入口(左のポールに標識) —ジュネーブで—

昨年十月十七日から十一月六日までの二十一日間、イギリス(ロンドン)、スペイン(マドリッド)、イタリア(ローマ)、オーストリア(ウィーン)、西ドイツ(ミュンヘン)、スイス(ジュネーブ)、フランス(パリ)など欧州七カ国を訪問し、主として幼児の交通安全教育について視察する機会を得ました。

ローマ、パリでは大規模な反核デモに出会ったり、ローマ空港では消防隊のストで一日足止めされるなどのアクシデントもありましたが、無事日程を消化し、団員八人元気で帰国しました。

出発前の約束で各自が「一國ずつ責任をもって視察報告を」ということで私はスイスを担当しましたので、今回はスイスの交通事情についての見聞をお知らせします。

スイス(ジュネーブ)の滞在は十月三十一日と十一月一日、土曜日の午後から日曜日でした。関係機関からの情報は得られませんでした。以下断片的ではありますが、目にし、耳にした状況を記すこととします。



二輪車の路上駐車場(メイドインジャパンの車が目につく) —ジュネーブで—

(1) 交通安全教育について (ガイド、ドライバー、一般市民の言)

学校では、教科のなかで交通安全教育はしていません。幼い子どもには家庭で教えている。これも官立と私立では異なる。中学校(十四才以下)では、在学中一回交通安全警察官から教育を受けている。

いわゆるバイクの運転については、従前は無免許でOKであったが、現在は学科(交通法規)のテストに合格しなければ運転できない。

(参考) 普通免許、自(一)二五C以上)の運転資格は十八才からとなっている。

他の視察国でも同様であったが、低学年のこどもの登下校については親の送り迎えが義務づけられている。(これは交通安全の見地よりむしろ誘拐

防止のためとのことである)

(2) 交通安全施設等について

交通量は他の視察国と比べて少く感じた。交通規制はきめ細かく行われている。また交通量もよく守られている。市内の一方通行規制が徹底している。例えば宿泊したホテルのすぐ近くに駅があったがバスで駅まで行くのに随分遠回りをして記憶が残っている。

一時停止すべき場所の手前に予告標識(逆三角形の赤枠標識)を設置して規制の徹底をはかるといふか、あるいは親切な配慮といふか、きめ細かさがかうかであった。

標識はドイツと同様は数多く見られ、また国際都市にふさわしくスマートであった。代表部の前田書記官の話では道路標識は日本のそれより三倍ぐらいの費用をかけているとのことである。

横断歩道の黄線標識はよく目立った。

レマン湖畔などの交通の激しい場所では、横断歩

### 事故のない社会を

#### 県交母活動推進大会

県交通安全母の会連合会(鶴田美枝会長)は、二月十八日県農業共済会館において、交通安全母活動推進大会と指導者講習会を開催しました。

大会は、県知事代理、県警交通部長、全交母専務理事、県安協専務理事など来賓多数を迎えて、まず交通安全母の会連合会会長の挨拶を聞き、続いて鶴田会長が、母の会の組織拡充を語り、本大会を契機として、さらに交通安全・事故防止のため母の会を基盤として母親活動を積極的に進める旨のあいさつをし、来賓の激励があつたあと、深い愛情とやさしい心づかいをもって交通安全事故のない明るい社会づくりに努力するとの大会宣言を採択しました。

続いて全日交今竹義一副会長から「交通安全と教育」、県警網倉第一交通部長から「家庭内の交通安全事故防止」と題する講演があり、今後の活動の進め方を研修しました。

そのあと、各地区交母の出陣による地方色豊かな「うたとおり」で大会を盛りあげ、また、昨年発足した県警音楽隊カラーガード班の若い女性たちが、美事なドリル演奏を披露して満場をわかせて、盛会のうちに幕を閉じました。



県交母活動推進大会であいさつする鶴田会長

#### 原付技能講習の強化をきめる

県二輪車安全運転推進委員会(吉田文男委員長)は、四月二十四日、ニュー機山で関係者二十名が出席して委員、幹事合同会議を開き、昭和五十六年度事業

報告、昭和五十七年度事業計画を審議決定するとともに、高校生、二輪車安全運転講習、指導員講習等について協議し、とくに交通安全の危険が多い原付自転車運転者に対する技能講習を一層充実強化して事故防止に努めることを決めた。

白バイ 宮野真作詞 望月香野作曲

2/4 6/8 animato

童謡 白バイ 宮野真作詞 望月香野作曲

どこへ行くのか 急ぐのか ツバメのように 舞うように 走る飛ばせる 自動車を 白バイ白バイ 追って行く

先の自動車 つぎつぎと 追越して行く ジグザグと 走る飛ばせる 自動車を 白バイ白バイ 追って行く

どこへなににしに 急ぐのか スピード上げて 舞うように 走る飛ばせる 自動車を 白バイ白バイ 追って行く

算案を審議し承認決定しました。

続いて全国交通安全キャラバンの参加、関東甲信越ブロック交通安全母親活動指導者講習会の開催等について協議し、積極的な参加を申し合わせました。

#### 新規購入 映画の紹介

山梨県交通安全協会では、新しく次の映画を購入しました。無料でお貸しいたします。ご利用ください。

一、女性ドライバーへの警告—ミニバイク NHK制作 16ミリ、カラー、20分

女性向 快速で便利なミニバイクの中で、女性によるミニバイクの事故が増加している。この映画は、ミニバイクが簡単手軽であるが、自転車と異なることを前提として起こしやすい危険を実験を通して訴え、安全運転の励行を強く呼びかけているものである。

二、高すぎた代償 —交通事故加害者の追跡報告— 16ミリ、カラー、30分

一般向 現在わが国の交通事故死者数は、昭和四十五年をピークに半減している。しかし、今なお、毎年六十万人を超える死傷者を出し、その数倍に及ぶ家族を悲惨などん底に陥れている。この映画は、その悲惨さの影に隠されたそれ以上に深刻な問題を露視し、償いから生涯を精神的な苦痛のうちに過す、過重な補償金負担から家庭の崩壊さえ招く加害者の実態を報告しているものである。

三、お母さんの忘れもの —幼児の交通安全と母親向— 16ミリ、カラー、25分

この映画は、交通安全の教育を通して、人間教育まで考えようとするものである。子供達の安全を願っての日常の生活の中で、母親自身もまた成長の必要があり、大人自身にも厳しさを要求します。母と子の人間教育を重点にして、身近な家庭を登壇させて、親しみ深く、交通安全教育の本来のあり方を分り易く訴えています。

県交通安全母の会連合会は、五月十三日、ニュー機山において役員等五十五名が出席し昭和五十七年度の定期総会を開催しました。

議長に先立って、県交母退職役員十一名に鶴田会長から感謝状を贈って多年にわたる功績をたたえ、議事には、昭和五十六年度の事業報告、同決算報告を審議承認し、次は昭和五十七年度の事業計画案、同予

# 二輪車安全運転指導で思うこと

特別指導員 吉田英之

山梨県は人口八十万、免許人口三十五万、保有台数三十四万五千台で、車の普及率は全国一です。現在山梨県には、特別指導員が二十四人、指導員が百四十三人、準指導員が百十五人おり、二輪車の安全運転指導をしています。

講習の受講率は二〇％となっています。その結果、五十四年、五十五年にかけて、二輪車の事故が減少して見えました。死亡事故を見ても、自動二輪車運転中の事故死者は、五十五年は九人で、前年より二人減少し、原付では、十一人が二人に減っています。

高校生に対する安全教育は、県下二十四校、延べ一万七千八百五十人の生徒が受講しています。出動指導員の数は、百六十六人、そのほか県警交通機動隊から各

## 興味を持つ年代に徹底した安全教育



原付免許初心者講習は、県内十五箇所の講習所で、月二回程度実施しており、一回の指導員数は四十人です。昭和五十六年中の原付免許合格者は八千五百五十四人、原付技能講習の受講者は九千二百五十五人（二百六十五回）となっており、

校二、三人の警察官が出動し、毎年、夏休み前に講習を終了しています。十二年間の指導員活動で私が感じたことを述べてみたいと思います。

現在のように月二回の原付講習では、当日、都合悪く受講できない人もあります。また、二、三時間の講習しか受けれない方々に納得のいく講習をするためにも、いつでも受講できる施設と時間があれば、安全教育も、より一層充実してくるのではないのでしょうか。



ためきもひと役交通事故防止



初の長坂交通少年議会

### 事故防止に活発な意見

長坂初回の交通少年議会  
長坂警察署（岩間安正署長）と長坂交通安全協会（堀内益信会長）は、春の全国交通安全運動の一環として、管内の小・中学校児童生徒の交通安全思想と交通安全意識を普及高揚し、この機会を通じて地域住民の正しい交通ルールとマナーの実践を習慣づけ、交通事故を防止するため交通少年議会を開きました。

議会は、四月十日午前十時から長坂署の大会議室で児童・生徒会長と交通関係機関団体の関係者七十名が参加し、

長坂警察署（岩間安正署長）と長坂交通安全協会（堀内益信会長）は、春の全国交通安全運動の一環として、管内の小・中学校児童生徒の交通安全思想と交通安全意識を普及高揚し、この機会を通じて地域住民の正しい交通ルールとマナーの実践を習慣づけ、交通事故を防止するため交通少年議会を開きました。

議会は、四月十日午前十時から長坂署の大会議室で児童・生徒会長と交通関係機関団体の関係者七十名が参加し、

### あなたも写真を

#### 第16回交通安全写真コンテスト募集要綱

交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

◇題目  
交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

◇題目  
交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

昭和五十七年九月中旬  
審査員  
主催者、後援者の委員および主催者の委嘱する写真専門家

◇賞  
最優秀賞一名、賞状、賞金二万円  
優等賞四名、賞状、賞金一万円  
銀賞四名、賞状、賞金七千円  
銅賞七名、賞状、賞金五千円  
佳作若干名、賞金三千円

◇応募規定  
①応募作品は未発表のもの、他に発表予定のない

交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

◇題目  
交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

○ 県下一の  
広いコースで 早い上達を！

○ 伝統ある当校で  
1日も早く免許証を あなたの手へ

財団法人  
山梨県交通安全協会経営

## 公認 山梨自動車学校

八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内  
TEL 05528-5-0752

締め切りは  
8月15日

交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

◇題目  
交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

◇題目  
交通安全の写真を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓蒙指導に資するため。

全教育はできません。これから先も交通安全は衰えることは無いでしょう。子供達を事故から守るために幼少から安全教育を行ってほしい。撮影の時期は問わない。

②応募作品には必ずネガを添付すること。ネガのないものは入賞することはできない。

③応募作品およびネガは返却しない。

④応募作品の著作権は主催者に帰属する。

⑤応募作品の裏面には必ず応募票をはり、次のことを記入すること。住所、氏名、題名（事故写真については事故原因）

⑥審査は交通安全思想の高揚に役立つもの、及び写真技術等を重視して行う。

主催  
財団法人山梨県交通安全協会  
後援  
山梨県警察本部  
山梨県日新聞社  
山梨県交通安全母の会連合会

### 交通事故最悪 運転神社身替りの御守りを

全園始祖  
運転神社御守  
操縦安全御祈禱

お守り代 140円  
送料 60円  
送金は、郵便切手又は、郵便小為替

○ 当神社は陸・海・空・乗物の運転・操縦・交通安全の御守りを授けお守りしています。  
○ 貴方の一生の幸福を護るご利益アラタカ御守りをご祈下さい。  
○ 通学・通勤・子供の自転車遊び等には携帯又は車に付けて下さい。  
○ 当神社は日本百景の第一位甲府昇仙峡、仙峡の北方、三柱の神社の一社です。

夫婦木神社 甲府市御幸町、仙峡より一、六〇〇米  
夫婦木姫ノ宮 甲府市御幸町、仙峡より三、〇〇〇米  
運転神社 甲府市御幸町、仙峡より三、〇〇〇米  
電話 〇五五二・八七、二二二二番

現在の私の悩みは、学校で禁止、生徒は乗りたい、両親は、成長とともに強くなる運転免許取得や、車にあこがれる子供の気持ちの板ばさみになっている現実と接することです。

一方、教える立場の指導員も、安全運転に対する自覚が必要です。店頭における安全指導、また不正改造車への指導等も、徹底していかねばなりません。

指導員の皆様方には、技術的な指導と、精神面での指導が、これから要求されてくることと思います。歩行者や自転車を含めた他の人々のことを思いやって十分責任を持った運転をするということが必要になってくるでしょう。とくに、この精神面の教育が、これからの指導員の仕事になってくることと思います。

私達は、運転する一人ひとりの方に安全運転を呼びかけ、警察本部、二輪車安全運転推進委員会、二輪車安全普及協会、その他諸団体の皆様のご指導、ご支援を得ながら、事故防止と安全運転の普及に、今後とも努力していくつもりです。

—優良二輪車指導員等表彰式の体験発表から—  
(人と車5月号より転載)